

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【札幌市】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	札幌市立旭小学校 第5学年 48名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育)
4 目標 (ねらい)	・オリンピック競技の体験を通して、冬場における運動への関心・意識を高めるとともに、オリンピック競技への理解を深める。 ・オリンピック選手との交流を通して、夢に向かって努力することの大切さや素晴らしさに気付き、自分の将来に向けて目標をもつ。
5 取組内容	○指導計画【2時間扱い】 【朝の会】数回 ・朝の会等でオリンピックやアイスホッケーの競技について話題にし、体験授業に興味・関心をもつ。 【体育】2時間 ※オリンピアンによる講話及びホッケー体験学習 ・元オリンピック選手による講話を聴く。 ・室内ホッケーの実技体験をする。 ○取組の様子 ①元オリンピック女子アイスホッケー選手 青木香奈枝さんの講話 ・オリンピックやアイスホッケー競技のこと、アイスホッケーを通して学んだこと、夢の実現に向けて努力したこと等について話をいただいた。子どもたちはとても興味深く聞いており、多くの質問をしていた。 ②室内ホッケー体験 ・ウォーミングアップに人数集めゲームを行った。



	・最初に基本的なスティックの使い方を学習した。その後、2人1組でボールをジグザグにパスしながらリレーをした。実際にやってみると意外と難しかったが、苦戦しながらも楽しくリレーをした。パックはぶつくと危険なので、室内ホッケー用のプラスチックボールを使用した。 ・少人数のミニゲームを行った。ボールはソフトテニス、ゴールはフットサルの練習用ゴールを使用した。初めて体験するスポーツに子どもは夢中になって取り組んだ。	 
6 主な成果	○成果 ・事前学習として、オリンピック・パラリンピックの歴史や冬のスポーツの種類などについて交流をした。子どもは、スキー以外の冬のスポーツにはあまりなじみがなく、実際に体験したことがほとんどないので、冬のスポーツに関心をもつ契機となった。 ・当日は、普段会うことのできないアスリート、青木さんの話に聞き入っていた。あきらめない心やチームワーク、選手村などのお話は興味深く、子どもの心に響いていた。 ・ホッケー体験では、楽しみながらホッケーにたっぷりと浸ることができた。最初はうまくできず戸惑っていたが、すぐに夢中になってボールを追いかける子どもの姿があり、オリンピック競技や冬のスポーツを楽しむ心を育てる機会となった。	
7 実践において工夫した点	・本校の子どもも多くは、スケートの経験が少ないことが考えられたため、スケートを滑りながらスティックを使う活動はやめ、体育館での体験としたが、ホッケーの体験として十分であった。 ・使用する物品を他校やスポーツ少年団から借用することができたため、全児童分を揃えたり、費用をおさえたりすることができた。	
8 主な課題等	・上記のように、子どもの実態に合わせた体験内容を工夫する必要がある。	
9 今後の取組について	・今回、アスリートの方に出会い、講話を聞いたり、競技を体験したりすることで、オリンピック・パラリンピックを身近に感じることができた。次年度も本事業の実施を希望し、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに興味・関心をつなげ、スポーツを愛する心を育てていく。 ・アスリートの方から学んだ「夢の実現に向けて努力することの大切さや素晴らしさ」を念頭に、あきらめない心や自分の将来の夢に対して向かう心を育てていく。	